



Paternity leave 男性の育児休業

かけがえのない時間を過ごすことができました

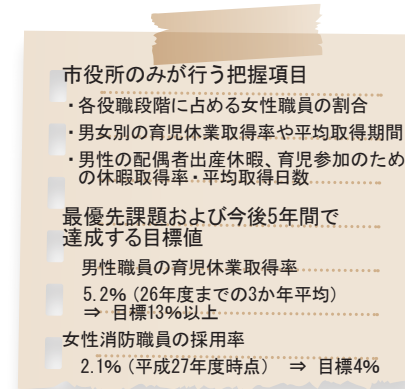
浦添市役所企画部 国際交流課
広報広聴係 係長 上江洲 芳樹 さん

我が家は、嘱託職員として働く妻と息子（5歳）と娘（2歳）の4人家族です。第二子妊娠の時に、妻の職場に育児制度が無いために、私が育児取得することについて考えるようになり、妻の産休終了と復職のタイミングで、平成25年2月から約2か月間育児を取得しました。朝、妻と息子を送り出してから、3時間おきのミルク、落ち着いたら掃除機に洗濯、アイロンかけ、沐浴など、育児と家事の両立はとにかく大変で、あっという間の2か月間でした。

「育児」＝「育自」（自らの成長）だとよく聞きますが、本当にその通りだなと思います。世の中の母親の偉大さを知ると同時に、生後2か月の娘と過ごした時間はかけがえのないものだったと実感しています。

男性が育休を取得する事例が少なく、取得することについて不安がありました。が、快く認めていただいた職場の上司や環境に感謝しています。

役職に就いた今、色々と相談される立場にあります。育休体験者として、今後取得を考えている人の背中を押してあげられればと思います。



全ての人が能力発揮できる社会へ

平成28年4月1日に「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が施行されました。

この法律は、女性が働く場面で、十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するためのものです。これにより、労働者301人以上の大企業および市役所などの地方公共団体は、自らの現状把握と課題分析を行い、一定期間で達成する目標値を設定するなど、行動計画を作成し公表することが義務づけられました。

本市も把握項目から最優先課題を挙げて、5年間で達成する目標を設定し公表しています。

それぞれの思い

浦添市が取り組む最優先課題にスポットを当て、平成17年に浦添市初の女性消防士として採用された2人、男性の育児休業休暇取得者にインタビューを行いました。また、沖縄で女性の社会進出の先駆的存在である現・浦添市男女共同参画審議会会長を務められている新垣幸子さんにお話を伺い、それぞれの立場から「思い、を語っていただきました。

Pioneer 女性の社会進出の先駆的存在

浦添市男女共同参画審議会 会長 新垣 幸子 さん

プロフィール

平成16年10月 沖縄県庁で福祉保健部長等を務めあげ、女性初の出納長に就任。以後、沖縄県信用保証協会会長、公益財団法人おきなわ女性財団理事長を務める。
現在は、公益社団法人沖縄県青少年育成県民会議会長、浦添市男女共同参画審議会会長を務める。



Firefighter 女性消防士 素敵に輝く

「守りたい」という思いに性別は関係ない

浦添市消防本部予防課 消防士長 金城 名帆子 さん
浦添市消防本部消防署 第一警備係 消防士長 知花 緒沙 さん

世の中には色々な人がいます。

私は、男女共同参画社会とというのは全ての人が住みやすい、生きやすい社会にするということとが大きな目標であると思っています。

男性も女性も自分たちが持っている力を十分に発揮し、社会に参画して、結果得られる利益を平等に享受できること。男性が働いて女性が家を守るという形だけではなく、その逆もあっていい。男性も女性も社会に出て行って働ける社会、働き方を互いに調整して家庭生活を両立するワークライフバランスの社会。そういった多様性を受け入れ、一人一人が生きて輝ける社会を作っていくことが男女共同参画社会だと思います。

昔に比べれば、「男女共同参画」という言葉や考え方が社会に浸透してきていると思います。例えば、再婚禁止期間が6か月から100日に短縮決定されるなど、法律や社会制度も時代にあったものに変わってきています。とは言っても、まだまだ女性にとって是不合理的な事や取り



なぜ消防士という職業を選んだのか。

知花 数少ない女性消防士に憧れがありました。

金城 私は正義感が強く、正義感＝消防士だと思い、消防士になりたいと思いました。

―平成17年当時に新聞社のインタビューで、知花さんは「男性が多い現場で女性が1人でもいたら、役立つことがあると思う」、金城さんは「頼られる消防官、スーパーウーマンになりたい」と語っていますが、11年経った今、自分が思っていたことは出ていますか。女性消防士として思うことは何かありますか。

知花 消防士になった頃、体力・筋力には自信があったのですが、現場や訓練で、全然通用しなくて初めは葛藤の毎日でした。しかし、女だから男だからといって区別することなく厳しい訓練をさせてもらったおかげで、今



ではトレーニングも訓練も同じ内容のものが出来るようになりました。甘やかさなかった職場環境に感謝しています。

救助や救急の現場で、女性や年配の方に「女性消防士さんがいてくれてよかった」と言ってもらえた時は、この仕事を選んでよかったと思える瞬間ですね。

金城 理想像には、近づいていますがまだまだです。

体力ではもちろん男性には勝てませんが、消防は体力勝負の現場だけではなく、事務の仕事もあります。「男だから」「女だから」で区別されることはありません。事務方がいてこそ、消防車や救急車を購入したり消防行政を運営できるのだと思います。今は現場を支える存在でありたいと思っています。

知花・金城

市民の安全や財産を守るという思いは、みんな一緒。所属や性別は関係ありません。

組むべき課題はたくさんあって、男女共同参画社会の実現に向けた不断の活動を継続していく必要があります。

家での習いが、外での習い（やーなれー ふかなれー）

性別などで区別されることはないんだという意識や感覚は、日常的に営まれる家庭生活を通して、子どものときから自然に学んでいくという事が重要です。子どもは、母親や父親の背中を見て育つものです。積極的に育児や家事に参加している父親の姿、母親の姿が子どもにとっては最大の学びとなるのです。

また、家庭だけでなく、教育現場でも男女混合名簿の実施など、性別の違いを理由に区別や差別はされることはないということ子どもたちが肌で感じ取れる環境を整えてあげることが大事です。

自分の性への違和感を持っている子どもたちは確実にいます。そういった性の多様性を受け止めて、全ての人がお互いの人権を認めて尊重し合える社会であって欲しいと願います。